

令和6年度 須津古墳群出張展示事業

楽座で
らくらく!
スルガ
古墳紀行

富士市教育委員会、沼津市教育委員会、
富士宮市教育委員会、静岡県埋蔵文化財センター
三島市教育委員会、伊豆の国市教育委員会

展示記録集



目次

プロローグ	3
I はじまりのスルガ王墓	4
II スルガ王の隆盛	10
III スルガ王のネットワークと水上交通	15
IV 富士山噴火後のスルガと須津古墳群	17
V 須津古墳群を未来へ	22
エピローグ	24

例言

- 1 本書は、令和6年度 須津古墳群出張展示事業『楽座でくらく！スルガ古墳紀行』内で展示したパネルを再構成した記録集である。図版については、各遺跡の調査機関および資料所蔵機関に提供いただいたものを使用したほか、一部資料については展示風景写真を掲載した。
- 2 本展示は、富士市教育委員会、沼津市教育委員会、富士宮市教育委員会、静岡県埋蔵文化財センターの共催のもと、三島市教育委員会、伊豆の国市教育委員会の協力を得て、道の駅 富士川楽座（東名高速道路富士川サービスエリア上り直結）4階フジヤマギャラリーで、令和6年（2024）8月9日から9月8日にかけて実施した（31日間）。会期中の観客動員数は、8,135名（1日平均約262名）、学芸員が日替わりで展示解説を行う出張ミュージアムトーク（8/9、8/10、8/24、9/8開催）の参加者は延べ149名である。
- 3 本書の編集は、富士市教育委員会文化財課が行った。

ご案内する学芸員



名前

- ・所属
- ・展示担当遺跡
- ・研究対象



藤村 翔

- ・富士市教育委員会
- ・全体構成、須津古墳群ほか
- ・石室好き



木村 聡

- ・沼津市教育委員会
- ・高尾山古墳、神明塚古墳
- ・城好き



佐藤 祐樹

- ・富士市教育委員会
- ・浅間古墳
- ・茶色い土層好き



近藤 史昭

- ・三島市教育委員会
- ・向山16号墳
- ・社会派考古学好き



原 悠翔

- ・富士宮市教育委員会
- ・丸ヶ谷戸遺跡
- ・葦崎古墳好き



島田 章広

- ・伊豆の国市教育委員会
- ・山木遺跡
- ・水中遺跡好き



山下 優介

- ・国立歴史民俗博物館
- ・羅軍山古墳
- ・土器好き



岩本 貴

- ・静岡県埋蔵文化財センター
- ・富山城内遺跡、青木原遺跡ほか
- ・弥生土器好き

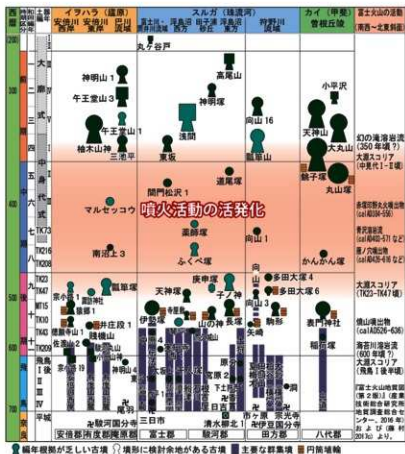
- 【表紙写真】 [左上] 高尾山古墳出土 浮形式歇帯鏡／沼津市教育委員会蔵
[右上] 千人塚古墳出土 横長心葉形鏡板付甕／富士山かくや姫ミュージアム蔵
[右下] 千人塚古墳出土 須恵器／富士山かくや姫ミュージアム蔵
- 【表紙背景】 [上段] 浅間古墳上空から浮島沼方面を望む
[下段] 千人塚古墳を中心とする須津古墳群の群衆イメージ（田中さとこ画）

ようこそ、スルガへ

今から1,400年以上前の古墳時代、ここ富士川の岸边から伊豆半島までを含めた地域は、スルガ（「珠流河」と呼ばれていました。

スルガでは、古墳時代のはじまりとともに大型の王墓があいついで築かれ、富士山の噴火による停滞はさみながらも、また新たに台頭したリーダーや、彼らを支えた集団による古墳づくりが飛鳥時代の終わりまで続きます。

本展示では、いずれもスルガの古墳や遺跡の発掘調査に携わった8人の学芸員がナビゲーターとなり、各自イチ押し古墳や遺跡とその出土品をご紹介します。長距離移動の休憩がてら、富士川楽座で気軽に古代スルガの古墳めぐりをお楽しみください。



富士山周辺地域における古墳の変遷



本展示でめぐるスルガの古墳と遺跡

Site. 001

こ ぶん しゅつげん ぜん や ふん ぼ
古墳出現前夜の墳墓

所在地 富士宮市大岩



まる が い と い せき ぜん ぼうこう ほうけいふんきゅうぼ
丸ヶ谷戸遺跡 前方後方形墳丘墓

丸ヶ谷戸遺跡の前方後方形墳丘墓は、後に沼津市域や富士市域で造られる前方後方墳の祖型と考えられる弥生時代終末期の墳墓です。墳丘は後世の削平によって失われていましたが、前方後方形にめぐる周溝内から、儀礼に用いられた土器が見つかっています。

しんらい ぼ せい ぜんぼうこうほうけいふんきゅうぼ
新来の墓制—前方後方形墳丘墓—

丸ヶ谷戸遺跡は1989年に第一次調査が行われ、前方後方形墳丘墓のほか、方形周溝墓や竪穴住居が発見されました。前方後方形墳丘墓は全長26.2m、周溝の幅は最大4mで、3世紀前半に造られたと考えられます。前方後方形墳丘墓は東海西部にその初現を求められる墓制であり、スルガでは外来の新しい墓制と言えます。



丸ヶ谷戸遺跡の調査状況

このお墓には
どんな人が
埋葬されたんだろう？



かつぱつ か えんかく ち こうりゅう
活発化する遠隔地との交流

前方後方形墳丘墓からは東海西部（濃尾平野周辺）を中心とした外来の土器が多く出土しており、近畿の土器も確認されています。このような他地域からの土器の流入は、地域間交流の活発化を示すものであり、新たな時代への移り変わりを示唆しています。



前方後方形墳丘墓出土の土器（富士宮市教育委員会蔵）

あたら ちいき
新しい地域のリーダー

丸ヶ谷戸遺跡が登場するまで、現在の大岩地区一帯には遺跡が存在していませんでした。

しかし、弥生時代終末期から古墳時代の始めにかけて、集落や墓域が形成されます。

この前方後方形墳丘墓は、積極的に東海西部を中心とした文物を採用した新しい開拓者たちの象徴であったと考えられます。



丸ヶ谷戸遺跡の前方後方形墳丘墓

Site. 002

さいしょ おう わむ
スルガ最初の「王」、ここに眠る

所在地 沼津市東熊堂



たか おさん こ ふん
高尾山古墳

国史跡

高尾山古墳はスルガにおける最も古い古墳です。浮島沼の最東部に位置し、眼前の平野や駿河湾、さらには狩野川河口部からも見ることができるとされる好立地に築られました。

こふんじだい まくあ 古墳時代の幕開け

高尾山古墳は出土品から3世紀中ごろに築かれた東日本最古級の前方後方墳で、全長は62mと同時期の古墳の中では最大級の大きさです。丸ヶ谷戸遺跡の墳丘墓も前方後方形の墓ですが、高尾山古墳は大きさが倍、墳丘の高さも5mもあることから、土木量はケタ違いに大きくなっています。

さらに高尾山古墳は後方部と前方部の比率がほぼ1:1、埋葬施設も後方部の中心に作られており、単に土を盛っただけではなく、その背景には複雑な計算やそれを実現するための高度な測量技術があったと考えられます。



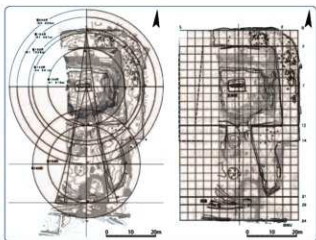
高尾山古墳の調査状況



埋葬施設の遺物出土状況
(鏡、鉄鏃、柄の痕跡)



埋葬施設の調査状況



高尾山古墳の設計企画の推定(左:寺澤薫案、右:北條芳隆案)

えんかくち しめ いぶつくん 遠隔地とのつながりを示す遺物群

高尾山古墳の埋葬施設からは、鏡や鉄製の武具、勾玉などが出土しました。これらは当時では大変な貴重品であり、もちろんスルガで作られたものではありません。どのようなルートでもたらされたのかについては諸説ありますが、高尾山古墳に埋葬された「王」が、遠く離れた地域とも交流を持つ人物であったことが想像できます。



高尾山古墳の副葬品及び棺上出土土器 (沼津市教育委員会)



鏡



勾玉



主要出土品



古墳時代のスルガ王は
持ち物も別格！

鏡・勾玉・鉄鏃・
鉄槍・ヤリガンナ

高尾山古墳【沼津市】
（沼津市教育委員会蔵）

中国輸入の鏡、小さくても精巧な
勾玉。どれも他地域由来のもので、
スルガ最初の「王」が持つにふさ
わしい貴重な品々です。

古墳時代最初の
スルガ王の系譜を示す土器

棺上出土土器

高尾山古墳【沼津市】
（沼津市教育委員会蔵）

棺の上に置かれていた土器。
頭の上にはスルガの大型壺（5頁）、
足元には東海西部（濃尾平野周辺）
に由来するとみられる壺が置かれて
いました。

Site. 003

かたち ゆめ み
その形はヤマトを夢見るのか

所在地 沼津市松長



しん めいづか こ ふん
神明塚古墳 市史跡

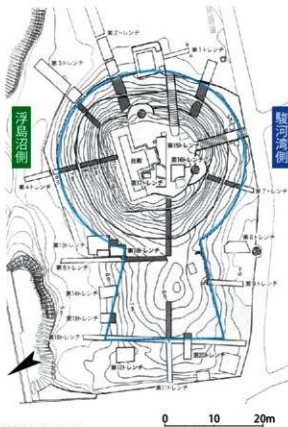
神明塚古墳は沼津市内で最も古い前方後円墳で、浮島沼南側の砂丘の緩い斜面に築かれています。「王」の墓であり、浮島沼水運の目印になるような巨大なモニュメントでもありました。

ぬまづし ない さいしょ ぜんぼう こうえんふん
沼津市内の最初の方後円墳

神明塚古墳は、3世紀後葉から4世紀初頭に築かれた全長約53mの方後円墳です。高尾山古墳に次いで築かれた王墓ですが、形は西日本にルーツをもつ方後円形をしています。高尾山古墳が前方部と後方部の長さがほぼ1:1であったことに比べ、神明塚古墳の前方部の長さは後方部よりも2/3短くなっています。このいびつな形は方後円墳の中でも古い形のもので、そのルーツはヤマト（現在の奈良県）にあるといわれています。

とくちょうてき かたち み
特徴的な形はどこから見える？

古墳の立地や北側を高く盛る墳丘の特徴から、海側ではなく、浮島沼側から見られることを強く意識している点も重要です。この古墳に葬られた王は、高尾山古墳の「王」の時代よりも倭王権とのかかりが深い、浮島沼周辺を治めた人物であったと考えられます。



神明塚古墳測量図



神明塚古墳と古墳の上に鎮座する神社



明治～大正時代ごろの浮島沼 (富士山かぐや姫ミュージアム提供)

や ま き い せ き
山木遺跡

山木遺跡は伊豆半島の付け根部分、北伊豆内陸部のほぼ中央に位置する遺跡です。
遺跡の範囲は南北1.3km、東西1.1kmの広大な範囲であり、遺跡からは住居や水田のほか、
列島各地との交流を示す土器などが見つかっています。

め ぐ だ い ち た が た へ い や
恵みの大地 “田方平野”

山木遺跡の範囲の大部分は「田方平野」と呼ばれる伊豆半島北部の肥沃な大地に位置しています。山木遺跡からは水田や「ネズミ返し」などの農業生産にかかわる木製品も多く見つかり、豊かな土地を求めた人々が周辺に集まってきたと考えられています。

え ん か く ち し め ど き ぐ ん
遠隔地とのつながりを示す土器群

山木遺跡からは近畿や北陸、関東などの地域から持ち込まれた土器が多く出土しています。このことは、本遺跡が伊豆半島北部における中心的な集落であったことを示し、田方平野を中心に東日本と西日本のかけ橋になっていたことがうかがえます。田方平野は、豊かな土地を求めた人々や技術が集まるスルガの先進地帯でもあったのです。



水田と水路の跡



農耕や生活にかかわる木製品／重要有形民俗文化財（伊豆の国市教育委員会蔵）



国内で初めて組み合わさった状態で見つかったネズミ返し



えんかくち　ひとびと　こうりゅう　あかし
遠隔地の人々との交流の証

土師器

Site.005 葦山城内遺跡【伊豆の国市】
(静岡県埋蔵文化財センター蔵)

山木遺跡や近接する葦山城内遺跡では、
周辺の遺跡に比べ、東海西部、近畿、北
陸各地の特徴をもつ土器の割合が高いこ
とが特筆されます。



Site.006

するがわんのぞ おうほ
駿河湾から臨む王墓

所在地 富士市増川

せんげん こふん
浅間古墳 国史跡

浅間古墳は駿河湾最奥部の愛鷹山南麓に4世紀前半頃に築造された静岡県最大規模の前方後方墳です。近年の地中レーダー探査の結果、後方部中央に埋葬施設が存在することが確定しました。

とうかい さいだい さいきゅう おおがた せんぼう こうほう ふん
東海最大級の大型前方後方墳

浅間古墳は、全長90.8m に復元される墳丘の大部分が良好に残存しています。また、後方部の墳頂には長辺約 9.5m、短辺約 6.8m の竪穴式石室（もしくは、粘土槨）が埋設されていると考えられています。

するがわん おおき み ふんきゅう
駿河湾から「大きく」魅せる墳丘

浅間古墳は、駿河湾や浮島沼のある南側が、愛鷹山がそびえる北側と比べ、一段高くなるように墳丘（基壇）が造られています。駿河湾側からの「視認性」を強く意識し、古墳の規模・存在をより大きく見せるよう、立地や墳丘の細部までが綿密に計画されていたとみられます。

すいじょう りくじょう とうつう しょうあく おう はか
水上・陸上交通を掌握したスルガ王の墓

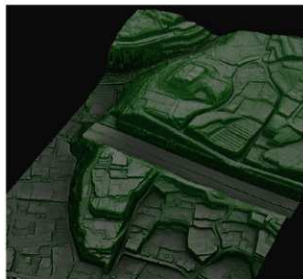
浅間古墳を築いた王は、水上交通の要である駿河湾から浮島沼の管理と、眼下を通る東西の街道（根方街道）、さらには甲斐・相模地域へと続く陸上交通の管理を担っていたと考えられます。倭王権と地域首長との列島規模の関係性を知る上でも、重要な古墳であるといえます。



浅間古墳上空から駿河湾方面を臨む



レーダー探査から推定される埋葬施設の範囲（後方部）



浅間古墳の墳丘と地形（陰影図）



せんげん ころもん 壺が いんさき
 浅間古墳の近くに営まれた
 集落出土の土器

土師器

Site. 007 宮添遺跡【富士市】
 (富士山かくや姫ミュージアム蔵)

後列中央の壺は装飾性の高い二重口縁
 壺です。肩部はかわいらしい円文と、
 弥生時代からスルガの壺によく使われ
 てきた縄文じようもんで飾られています。



宮添遺跡の集落（画面手前）と
 浅間古墳（画面右奥）

Site. 008

たてあな しきせきしつ むむ おう はか
「**竪穴式石室**」に眠る王の墓

所在地 三島市谷田



むかいやまじゅうろくごうふん

向山 16 号墳

県史跡

向山古墳群第16号墳（以下、向山16号墳）は、大場川左岸の丘陵上に4世紀中葉に築造された前方後円墳です。「竪穴式石室」という板石積みの埋葬施設を持つのが、この古墳の最大の特徴です。

たがたへい や とお みち いしき こふん
田方平野を通る道を意識した古墳

向山 16 号墳は、箱根山西麓の尾根の末端部に位置しています。後円部を富士山の方向に向け、田方平野が開けた西側からよく見えるよう意識して築かれました。田方平野には大場川や御殿川などの川が流れ、まわりからはこの古墳と同時代の遺跡がみつかっています。さらに、川の周辺には浮島沼から田方平野へと続く道があったことが予想できます。これらの集落や道から古墳が見えることが、とても重要でした。



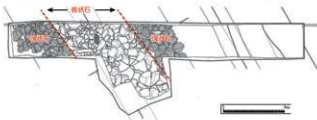
後円部側からみた墳丘



向山16号墳から箱根山方面を臨む

たてあなしきせきしつ み やまとおうけん ふか かんけい
竪穴式石室から見える倭王権との深い関係

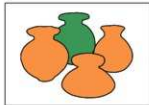
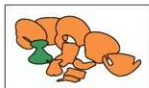
向山 16 号墳の竪穴式石室は、直径 10～30 cm 程度の石で構築され、中央あたりに板状の石、周囲に塊状の石が使用されています。また、中央部は板状の石をアーチ状に積み上げて石室に蓋をしている点もみどころです。このような石室のスタイルは奈良県の黒塚古墳や中山大塚古墳などと類似し、向山 16 号墳を築いた王が、遠く離れた倭王権中枢の勢力と深い関係をもっていたことを私たちに教えてくれます。



向山16号墳の竪穴式石室



- 青木原遺跡
- 中島B遺跡



平野に造られた四角い墓に
供えられた土器
土師器

Site 010 青木原遺跡【三島市】
(静岡県埋蔵文化財センター蔵)

伝統的な縄文を付けた地元由来の壺に、東海西部（濃尾平野周辺）由来の壺、甕、高坏などが加わる土器が、方形周溝墓上で使われました。

大場川流域の集落で使われた土器
—伝統と革新
土師器

Site 011 中島B遺跡【三島市】
(静岡県埋蔵文化財センター蔵)

伝統的な縄文を付けた地元由来の壺に、西日本由来で、この時期に新たに登場する精巧なつくりの器台が組み合わされます。

ひょうたんやま こ ふん
瓢箪山古墳

瓢箪山古墳は、田方平野東部の丘陵先端に4世紀後葉に築かれた前方後円墳です。その規模から、伊豆を代表する王墓であることは間違いなく、また立地は、この地域の役割や交通路を考える上でとても重要です。

い ず はんとう さいだい ぜんぽう こうえんふん
伊豆半島最大の前方後円墳

伊豆半島では、全長 50mを超える大きな前方後円墳の存在が明らかではありませんでしたが、近年の調査によって知られるようになりました。2016～2019年の測量と発掘調査の結果、瓢箪山古墳は全長約 87mの前方後円墳で、その築造時期は古墳時代前期後半と推定されました。



瓢箪山古墳と熱函道路の位置 / 筑波大学人文社会科学部研究科歴史人類学専攻2019

ひょうたんやまこふん りっち
瓢箪山古墳の立地とつくり

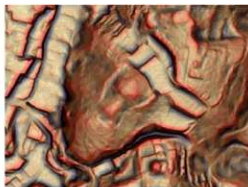
瓢箪山古墳は、伊豆半島の付け根を横断し、海路を経て関東へといたる道（現在の熱函道路）の入口に立地します。発掘調査の結果、道側の墳丘が反対側に比べ、一段多いことが確認されましたので、道側からの見え方を意識して古墳が造られたといえます。前方後円形の墳丘であることも考えれば、交通の要である伊豆北部と、倭王権との関係性が強まった可能性が考えられます。



空から見た瓢箪山古墳 / (株)ウィンディネットワーク提供図に加筆



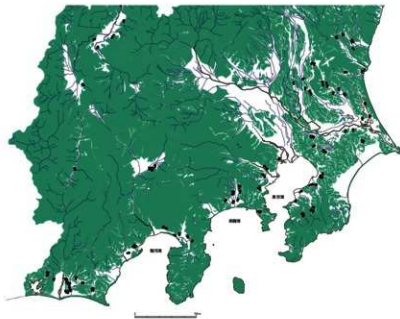
瓢箪山古墳墳丘復元図 / 筑波大学・滝沢誠提供図に加筆



航空レーザー測量図で見た瓢箪山古墳 / 静岡県森林クラウド公開システム提供図に加筆

こふんりっち すいじょうこうつうろ 古墳立地と水上交通路

ここまで紹介したスルガ王たちの古墳は、いずれも水上や陸上の交通路からの見え方をとて意識して、立地や墳丘の細部を工夫した「ランドマーク」でもありました。それぞれの古墳の「可視領域」(古墳が見える範囲)を地理情報システムを用いて算出すると、その王がどの交通路を重視したのかを考えるヒントを得ることができます。その結果を見ると、多くのスルガ王の古墳が、浮島沼や大場川、駿河湾などの水上交通路を重視していたことがうかがえます。



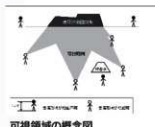
太平洋沿岸に立地する前期古墳



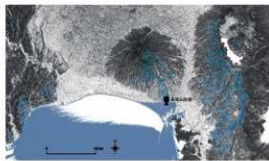
浅間古墳の王の時代に浮島沼で使われた準横造船(船底部分)

Site. 012

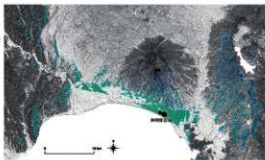
沖田遺跡(富士市)
(富士山かくや館ミュージアム蔵)



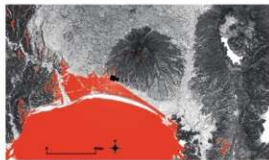
可視領域の概念図
※ 可視領域の分析データ・概念図は、
原芳郎氏より提供を受けた。



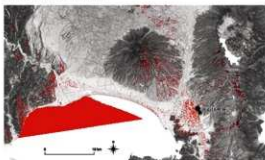
高尾山古墳の可視領域



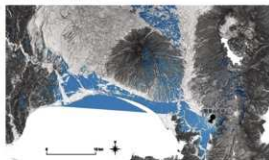
神明塚古墳の可視領域



浅間古墳の可視領域

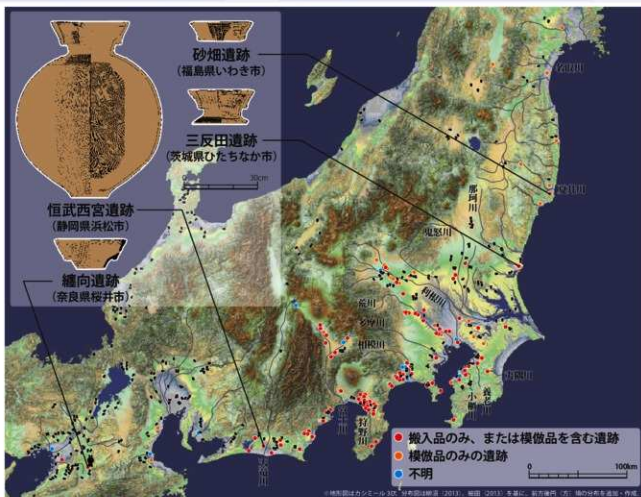


向山16号墳の可視領域



鵜沼山古墳の可視領域

Ⅲ スルガ王のネットワークと水上交通



スルガ産ブランドの大型壺、海を渡る

3～4世紀にスルガで生産された大廓式土器のうち、特に大型壺は東日本各地へも持ち運ばれています。この大型壺は、儀礼での使用のほか、稲穂輸送用のコンテナとしての役割もあったとする説もあります。大型壺の分布を見ると、河川や海沿いに広がっていること、さらには各地の有力古墳が近接して立地していることが注目されます。スルガの王たちは、スルガ産ブランドの稲穂を交渉の材料に、勢力の拡大と東国の開拓の後押しするため、巨大な壺を王の威容をたたえる容器として用いた可能性があります。



あしたのさんかく ころも しゅうらく
愛鷹山麓の高地集落で
出土したスルガ産の壺

大型壺（大廓式土器）

Site 013 壺出遺跡【沼津市】

(1・4：沼津市教育委員会蔵)
(2・3：静岡県埋蔵文化財センター蔵)

土器の胎土にカワゴ平バミスと呼ばれる白色軽石を練り込むことで、比重を軽くして、長距離輸送に適する軽量化を達成したと考えられます。

Site. 014

噴火災害復興の象徴か

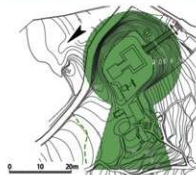
てんじんづか こふん 天神塚古墳

ふんかご しゃがい たいとう しょき
噴火後の社会で台頭した初期のリーダー

天神塚古墳は、須津川西岸の丘陵上に6世紀初め頃に築かれた古墳です。墳形は未確定ながら、前方後円墳であれば全長約51mと推定されます。

古墳が造られる以前にはここに集落があり、5世紀末頃に富士山から噴出したスコリアによって集落が覆われた後、そこに盛土をして古墳が造られました。噴火後の社会で地域をまとめた首長の墓と考えられます。

所在地 富士市中里



(上) 天神塚古墳全景
(左) 墳丘復元図

Site. 015

6世紀後半の須津の盟主が眠る

ことひら こふん 琴平古墳

県史跡

なかざと しぐん てんかいき しゃどう
中里支群の展開期を主導したリーダー

琴平古墳は、須津川西岸の周囲よりも一際高い丘陵上に6世紀後半頃に築かれた、径29.7mを測る中型円墳です。埋葬施設の内容は不明ですが、墳丘北側には幅8.5mの周溝がめぐっています。琴平古墳の周囲には6世紀後半から7世紀前半の小円墳が集中することから(中里支群)、須津古墳群の展開に中心的な役割を果たした首長の墓とみられます。

所在地 富士市中里

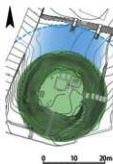


琴平古墳全景

周溝の調査状況と墳丘復元図



周溝の調査状況と墳丘復元図



須津古墳群分布図

作成：藤村 剛（富士市教育委員会）

Site. 016

ことひら こふん けいふ つ しゅうだん
琴平古墳の系譜を継ぐ集団

所在地 富士市中里

なかざと しぐん しょうえんぶん
中里支群の小円墳

ことひらこふん よ そ きず しょうえんぶんぐん
琴平古墳に寄り添うように築かれた小円墳群

琴平古墳の周囲に6世紀末から7世紀前半に築かれた古墳は、いずれも径 10m前後の小円墳ながら、金銅装大刀(K-95・99号墳)や銅鏡(K-78号墳)、銅鏡(K-79号墳)といった有力な副葬品を保有する古墳が目立ちます。これらの古墳は、琴平古墳の首長の後継として、中里支群の集団をまとめた指導者たちの墓と考えられます。



中里大久保古墳(K-95号墳)の調査風景



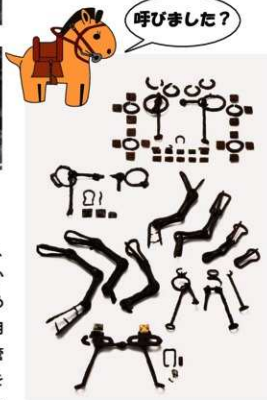
中里大久保古墳の金銅装大刀出土状況



中里大久保古墳の横穴式石室



中里大久保古墳(K-95号墳)、K-97・98・99号墳の出土遺物 (富士山かくや姫ミュージアム蔵)



千人塚古墳、中里大久保古墳(K-95号墳)、K-98・99号墳の馬具 (富士山かくや姫ミュージアム蔵)

すど こふんぐん しゅうだん うまさき
須津古墳群と馬牧

須津古墳群では、スルガのほかの地域の古墳群と比べ、馬具が豊富に出土しています。馬は5世紀頃に朝鮮半島から日本列島へともたらされ、軍用のほか、陸上交通のための動物として重宝されました。須津古墳群に集中する実用的な馬具は、この地域の集団が馬を用いた高速交通網の管理のほか、馬の飼育を愛鷹山麓の牧でおこなった可能性を示しています。スルガ産の馬が、全国の街道を駆け巡っていたのかもかもしれません。

Site. 018

スルガ最大級の大型石室

所在地 富士市神谷

せん にん づか こ ふん 千人塚古墳

市史跡

あすか じ だい たいひょう しゅちょうぼ
飛鳥時代のスルガを代表する首長墓

千人塚古墳は、7世紀中頃に築かれた須津川東岸に広がる須津古墳群神谷支群の中核的な首長墓です。発掘調査によって、周囲に幅約3.0mの周溝がめぐる径約21mの円墳と判明しました。

埋葬施設は全長11.4m以上、中央部幅2.05m、石室高2.35mを測る大型の横穴式石室であり、その規模はスルガ最大級を誇ります。石室や墳丘の規模、そして副葬品の内容から、同時期のスルガでもトップクラスの地域首長が埋葬されていたと考えられます。2024年7月から保存整備のための再発掘調査が進んでおり、さらなる新発見が期待されます。

おうけん ふか むす しめ ふくそうひん
王権との深い結びつきを示す副葬品

千人塚古墳の石室内からは、丸玉、大刀、金銅製刀装具、鉄鏃（矢じり）、弓の金具、砥石、鎌、刀子（ナイフ）、馬具、須恵器、土師器などの多種の遺物が出土しています。なかでも馬具の轡に付けられた金銅製の飾り金具は、飛鳥時代の仏像装飾と関係のあるデザインをとり入れた珍しいものであり、飛鳥宮の王権と千人塚古墳の首長との深い結びつきを示す重要な資料です。



千人塚古墳の現況 / 令和6年度調査前



千人塚古墳の出土遺物（富士山かぐや姫ミュージアム蔵）



千人塚古墳の横穴式石室（入口側） / 平成14年度調査



千人塚古墳の横穴式石室（奥壁側） / 平成14年度調査

作成：藤村 剛（富士市教育委員会）

Site. 017

しご せん にん づか こ ふん ささ
死後も千人塚古墳を支える

所在地 富士市神谷

かみ や し ぐん しょうえんぶん
神谷支群の小円墳

市史跡

せん にん づか こ ふん はいご てんかい しょうえんぶんぐん
千人塚古墳の背後に展開した小円墳群

須津川東岸に展開した神谷支群のうち、千人塚古墳の背後に位置する径 10m前後の小円墳は、いずれも 7 世紀前半から後半に築造されたものです。これらの古墳には、その立地や石室規模、副葬品の内容などから、千人塚古墳の首長の下で地域経営を支えたほぼ同世代の集団が眠っていると考えられます。古墳の大小やその立地といった古墳群の景観により、生前の社会関係が表現されたといえます。



千人塚古墳を中心とする神谷支群の群集イメージ / 復元画制作: 田中さとこ



(左上) 須津J-7号墳の横穴式石室 (右上) 須津J-9号墳の横穴式石室
(左下・右下) 須津J-12号墳の横穴式石室



新東名高速道路建設に先立つ神谷支群の発掘調査風景 / 静岡県埋蔵文化財センター提供



ど ぼくかい はつ しょうさんこうぎょう ぎじゅつしや
土木開発や殖産興業をすすめた技術者たち

須津古墳群などの愛鷹山南麓の古墳群では、山林開発や木材加工（鎌・刀子・ヤリガンナ）、製糸・布織物生産（紡錘車・針）、鍛冶（砥石）生産にかんする道具が出土することから、それらに携わる渡来人を含めた技術者層の存在が浮かび上がってきます。彼らは愛鷹山南麓に広大な墓地や馬牧を切り開いたほか、浮島沼を挟んで対岸に位置する駿河湾の砂礫州上に、手工業生産の拠点となる集落群を創出したと考えられています。



鉄針（縫い針）

めずらしい縫い針を含む
神谷支群の副葬品

武器・工具・土器

須津J-6号墳【富士市】

（静岡県埋蔵文化財センター蔵）

千人塚古墳の背後に立地する小円墳の出土品。
多量の武器にまぎれて縫い針があり、古墳の
主が布の生産に関わった可能性があります。



すど せんになづか こふん せいびこうじ 須津 千人塚古墳の整備工事

すど こふんぐん 須津古墳群の

フィールドミュージアム

富士市では、令和元年度に策定した千人塚古墳の保存活用計画に基づき、令和6年度から古墳の保存整備工事に着手し、令和7年度末までに古墳の広場としてオープンする計画です。供用後は、東海最大級の愛鷹山南麓古墳群の中でも、最も有力な古墳が集中する須津古墳群について、体系的に学ぶことのできるフィールドミュージアムとして活用します。

ぶんかざい ほぞんかつようくいき 「文化財保存活用区域」 きよよてん し せき の拠点史跡として

富士市の須津地区は、令和4年度に策定した富士市文化財保存活用地域計画において、多様な文化財が集中する文化的空間の創出を目指す地区（文化財保存活用区域）に認定されています。千人塚古墳の整備供用後は、須津地区の文化財群周遊ルートの中でも拠点的な史跡の一つとして重視していくほか、地域が主体となって実施する文化財関連イベント等においても積極的な活用を推めていきます。



千人塚古墳の市史跡指定範囲と保存整備計画 ※計画中のもの

特徴 01 静岡県最大級の横穴式石室を 守り伝える整備工事

古墳の保護を最優先とした新工法を採用します

現在の千人塚古墳は、周囲が削られて不安定な形状をしています。残された遺構を傷つけず、耐久性にも優れた新工法の擁壁を設置することで、盛土による古墳（墳丘）の復元と保護を図ります。

特徴 02 地区住民に愛される古墳整備 地域づくりに貢献する古墳をめざして

豊かな自然とお茶畑に囲まれたフィールドミュージアムへ

園内はユニバーサルデザインを取り入れたスロープなどを設置するほか、古墳の周囲には花も楽しめる植栽を揃える計画です。年齢を問わず、誰もが気軽に須津古墳群や愛鷹山南麓全体の古墳群について学ぶことのできる地域学習の場として整備します。



富士市史跡保存整備推進委員会
(千人塚古墳部会)の様子



須津中学校生徒による古墳解説
／須津古墳スタンプラリー

こふん い じぞくかのう 古墳を活かした持続可能なまちづくり すどちく in 須津地区

「まちづくり」と「古墳」の関係

「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標 11 は、「住み続けられるまちづくりを」です。須津古墳群を擁する須津地区と富士市教育委員会文化財課は、協働して様々な事業を実施し、「古墳」を活かした「まちづくり」を実践しています。

「文化財を保存・活用し、後世に伝える」活動のシンボルマーク▶



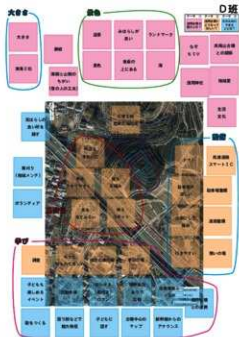
▲ 発掘体験H-1 (ほるファン) グランプリ (小学校PTAとの協働 in地区文化祭)

▲ 須津地区作成の古墳グッズ類

▲ 浅間古墳の未来を考えるワークショップとその成果の一部▶

ちく みりよく ちくぜんたい かんが 地区の魅力が地区全体で考える

須津地区の役員は、お揃いの「浅間古墳 SDGs ポロシャツ」を着て古墳のウォークラリーなどの活動を実践します。また須津小学校の児童は、古墳の魅力を発信する方法を授業を通じて提案し、地域の協力を得て実現させています。古墳の樹木などを対象とした調査やワークショップも、市と地区で協働して進めています。そのような活動は、地域の文化・歴史を深く知り、その魅力を考えるきっかけとなっているのです。地域内で循環する文化財を活かした活動は、「住み続けられるまちづくりを」推進し、文化財を将来にわたって確実に遺していくことにもつながっていきます。





- 001 丸ヶ谷戸遺跡 (富士宮市)
- 002 萬尾山古墳 (沼津市)
- 003 神明塚古墳 (沼津市)
- 004 山木遺跡 (伊豆の国市)
- 005 藤山内遺跡 (伊豆の国市)

- 006 浅間古墳 (富士市)
- 007 宮原遺跡 (富士市)
- 008 向山16号墳 (三島市)
- 009 新草山古墳 (沼津市)
- 010 青木原遺跡 (三島市)
- 011 中島日遺跡 (三島市)

- 012 沖田遺跡 (富士市)
- 013 樋出遺跡 (沼津市)

- 014 天神塚古墳 (富士市)
- 015 夢平古墳 (富士市)
- 016 須津古墳群中屋支群 (富士市)
- 017 須津古墳群神谷支群 (富士市)
- 018 千人塚古墳 (富士市)

スルガの古墳からみえる古代の道と現代

古代スルガの古墳をめぐる旅、いかがだったでしょうか。3・4世紀のスルガ王墓は、徒歩や船で行き交う水陸の道からの見え方を意識して、地域のランドマークとなるよう立地や墳丘を工夫していました。6・7世紀のスルガの古墳群は、馬を用いた高速交通の発達と連動して、馬具の出土が顕著となります。そのネットワークは、7世紀後半の古代東海道開通へと結実し、その経路は現代の高速道路や鉄道にも大きな影響を与えています。交通路のランドマークという意味では、富士川楽座の大観覧車フジスカイビューと古墳の意外な共通点も見えてきます。

古墳を地域のなかで生かす取り組みは、各地で実践され始めています。古墳はかつて、遠く離れた地域を「道」で結びましたが、現代社会においても、地域の枠を越えた魅力の掘り起こしや広域的なまちづくりへの活用の可能性を秘めているといえます。

本展示がみなさまの身近な土地の古墳や文化財を振り返る一助となりましたら幸いです。

令和6年度 須津古墳群出張展示事業



展示記録集

発行年月日	令和6年10月19日
編 者	富士市教育委員会文化財課
発 行	富士市教育委員会 沼津市教育委員会 富士宮市教育委員会 静岡市教育委員会 三島市教育委員会 伊豆の国市教育委員会